

〈巻頭言〉

皆様のお役に立つ学会誌を目指して

日本化粧品学会 編集委員長 中川晋作

杉林堅次前編集委員長の後を引き継ぎ、この度委員長に就任しました中川晋作です。若輩者ではありますが、何卒宜しくお願いいたします。

まずはじめに簡単に自己紹介をさせていただきます。現在私は、大阪大学大学院薬学研究科におきまして、Drug Delivery System 研究、特に皮膚を介してワクチン抗原をデリバリーする経皮ワクチン（貼るワクチン）の研究を行っております。これまでに親水性ゲルパッチならびに皮膚内溶解型マイクロニードルを経皮ワクチンデバイスとして用い、前臨床ならびに臨床研究にて破傷風・ジフテリアトキソイドワクチンならびにインフルエンザ HA ワクチンの有効性と安全性を確認しております。これらの研究を遂行するに当たっては、皮膚の構造やさまざまな生理機能を理解したうえで、経皮免疫のためのデバイス開発やその安全性と有効性の評価、さらには免疫誘導に関するメカニズム解析などを行っていく必要があります。皮膚が主な研究対象である本学会は、私にとりまして新たな観点からの情報やアイデアを得るのに最適な場となっております。日本発、世界初の貼るワクチンの開発を目指してさらなる研究を積み重ねておりますので、皆様には何かの機会に紹介したいと思っております。

さて日本化粧品学会は、皆様もご存じのとおり、化粧品や医薬部外品などの化粧品の安全性や品質確保を目的に、皮膚科医や化粧品研究者、薬学領域の研究者らが集まり、1976年に第1回学術研究会が開催されました。毎年開催されている学術大会では、この目的に沿って化粧品およびその関連物質に関して、さまざまな方面からその有効性や安全性、評価方法、さらには種々の医学的および科学的、技術的問題などについての議論がなされております。本学会誌の役割は、それら研究成果を投稿論文あるいは総説論文として掲載し、学会関係者をはじめ多くの方々に情報発信することにあります。研究成果を学術大会で発表することは、サイエンスの面から化粧品領域の発展に貢献しますが、さらに重要なことはそれら研究内容を原著論文としてまとめ上げ、多くの方々に公表することにあります。どの領域でも同じですが、サイエンスなくしてその領域の発展はありえませんし、また研究成果を原著論文として公表しなければ、その研究成果は自己満足を得ただけに過ぎず、その領域全体にとって意味ある成果にはなりません。皆様におかれましては、この点をご理解いただき、化粧品領域の発展をサイエンスの面から支えていただきたく、これまで以上に数多くの quality の高い論文を投稿していただきますようお願い申し上げます。また本学会誌では、化粧品領域において、今後大いに役立つであろう新たな話題提供や技術情報、関連学会の予告や報告、書評などを随時掲載しております。また、37巻3号からは、寄稿「化粧品の歴史（生い立ち）」として、本学会の設立ならびに運営に初期のころから携わってこられた先生方に、さまざまな視点からこれまでの化粧品領域の歴史やエピソードを語っていただく企画を開始いたしました。このように本学会誌は、化粧品領域の研究・開発において学会関係者をはじめ多くの方々のお役に立つ情報を発信しており、これからもこれら情報の充実を図っていきたくと考えております。またこれら化粧品領域の情報を広く多くの方々に発信していくに当たりましては、本学会誌に掲載された論文を掲載1年後よりJ-STAGEにて公開することになりました。今後、化粧品領域をより一層発展させるにあたり、本学会誌が果たすべき役割を考え、多くの方々に有益な情報を提供するとともに楽しんでいただける企画などを盛り込んでいきたくと考えておりますので、皆様におかれましては、本学会誌への論文投稿を含め、これまで以上のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。